

東京湾ベントスのデータベース作成

やまだかずゆき

kaz_y-miaw@nifty.com

<http://miaw.o.oo7.jp/>

東京湾は様々な要因で在来種がほとんど姿を消し、移入種ばかりが目立つようになりました。つい20年前ほどまで当たり前に漁獲されていた魚介類は今やすっかり捕れなくなり、アサリは海外の種苗に依存しています。1980年代にはかなり回復したかに見えた海底環境も、今日では再び悪化の方向にあるようです。

そしてその過程で消滅した個体群の実態が、明らかにされていません。かつて東京湾にどのような生物群集が形成されていたのか、もはや推測することさえ困難です。

東京湾に過去確実に生息していたもの、今は姿を消したものの、新たに加入したものの、そういった包括的なデータベースは存在しませんが、もし作成できれば近い将来必ず有用になると考えられます。親水利用の水辺整備や、近年ブームの人工干潟造成などに利用できるほか、世界各地の開発の現場で第二の東京湾をつくらないための反証的なモデルケースとなることは間違いありません。

やまだは自身のサイト上に展開することも考えていましたが、予備調査の段階で数千種に達することが判明したため断念しました。

必要な予算としては、公開手段のための費用、文献収集にかかわる経費、データ入力などのための人件費、その他諸経費になると考えます。

作業の主体は文献調査になります。記載論文などを集めて採集地をチェックする必要があります。古い論文では模式産地は明記されず、標本の産地が一括して示してあるだけの場合もあります。最近の論文でも、模式産地以外に比較検討された標本の産地が列記してある場合があります。こうした中から必要な地名を拾い出すことになるでしょう。慣れれば誰でもできるとは思いますが、最初は効率が悪いかもしれませんし、見落としも出るでしょう。

必要な情報を読取りやすい入力フォームも必要になります。おそらく印刷物よりは、インターネット上に公開する方が、合理的でしょう。HTML形式は他の方式よりもリンク性能に優れ、ファイルも軽いので、多くの分類群を含むデータベース作成に有効です。ただし、日本語と欧米のフォントが混在すると、表示不能や文字化けする字があります。

作業が進む先には、文献に載っていない種を採集して報告することも含まれるようになるでしょう。この辺りはフィールドワーカーに情報が集まっています。